

2024年度 事業計画（案）

1、事業実施の方針

エキスポを含めたアート販売はすべて感染症の感染拡大に注視したうえで、展示を実地、販売はネットで実施する。つまり方針は昨年同様、実地展示とネット販売とのハイブリッドとする。

開催概要は下記のとおり。

第14回 国際チャレンジドアートエキスポインジャパン2024 開催概要（案）

開催目的：障がい者がつくる芸術品（オンリーワンアート）を世に紹介し、アートでの可能性、自立支援について考える。

テーマ：スマイル ～ 笑顔はヒトを幸せにする ～

時期：2024年11月（予定）

主催：特定非営利活動法人サポートセンターどリーむ

共催：島根県商工会議所連合会、一般社団法人新極美術協会、わんぱくデザイン研究所

協賛：一般財団法人ごうぎん財団、山陰パナソニック(株)

特別協賛：出雲大社

場所：実地での展示及びインターネットを通じた販売で開催
4つのテーマを決め3か月に1回のペースで実施

展示：国内&国外 20ヵ国 島根県、鳥取県、神奈川県、兵庫県、東京都、オランダなど
凸版印刷、障がい者アート協会

どリーむに通うアーティストの力作をネット上で紹介、絵画、陶器、工芸品等
計700点

協賛出展：ごうぎんチャレンジドまつえ

1) 本部事業

法人の理念を大切に、地に足のついた福祉活動を行いたい。

ICTを活用した独自の情報発信やアートタウンプロジェクトを展開しながら、障がい者のアートでの自立、会員数の確保に繋げていきたい。

JASCAP（障がい者アートのネット販売）やわんぱくデザイン研究所の運営をとおして障がい者アートの可能性を拡げていきたい。

2) わんぱく学園事業

障がい児童とそこご家族の方の参加が一人でも増えるよう、また、地域の方との触れ合いを通した活動に広がるようわんぱく学園の理念を大切に活動に取り組んでいきたい。

3) 就労継続支援B型事業（わんぱく大使館）

業務継続計画（BCP）を活かし、災害や感染症拡大に気をつけながら事業に取り組むたい。

あわせて、いままで自粛していたアート展の回数が増やせるよう努めていきたい。

アートでのご縁を大切に、関係企業と協力しながらアートへの二次利用を含めたアート収益の向上に結び付けたい。

ハーブ事業をはじめ、受注先への配慮に感謝しながら信頼関係を構築していけるよう事業に取り組むたい。

ICTを活用し在籍アーティスト等の作品を情報発信していきたい。

4) 相談支援事業

様々な社会資源を活かしながら利用者の相談支援に対応できるよう、相談支援専門員の質の向上を目標に、研修を含めた人材育成に取り組んでいきたい。

また、人材の確保にも力を注いでいきたい。

5) 共同生活支援事業（わんぱくハウス）

施設利用者が地域住民の方々に温かく見守られ地域で安心して生活を送ることができるように地に根を張った支援に努めていきたい。また、利用者の気持ちに沿った支援に結びつくよ職員の人財育成にも取り組んでいきたい。

6) その他、新たな商品開発、アイデアの創出により、ビジネスの活性化をめざしたい。

2、事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所 従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
本部	本部運営	通年	36名	340
就労継続支援B 型事業所 わんぱく大使館	アート展開催 WEB	第13回国際チャレンジド アートエキスポ R5年10月 (実地での展示、 WEBでの開催)	絵画、陶芸製作者 24名 24名	170
	障がい者の就労 支援	毎週月曜日～金曜日 9時～16時 わんぱく大使館 5名	わんぱく大使館 利用者 24名	35,185
計画相談支援	障がい者の計画 相談支援	毎週月曜日～金曜日 10時～16時 相談支援事業所わんぱく 2名	相談支援事業所 わんぱく 利用者 10名	3,160
共同生活支援 事業	障がい者の共同 生活支援	年末年始以外 わんぱくハウス 2名	わんぱくハウス 利用者 6名	6,015
わんぱく学園 事業	障がい者、健常 者一緒の戸外活 動	毎週日曜日午前中、アト リエ「おちらと」 2名	障がい者 延べ 50名	294

(2) その他の事業 今年度は実施しない。